

Systemex

BeFine!

第40期営業の中間ご報告

2006年4月1日～2006年9月30日

証券コード 6869



シスメックス株式会社

検体検査事業からライフサイエンス事業へと活躍の場を広げつつあるシスメックス。健康への関心がますます高まる社会の中で、当社は健やかな未来に独自の技術と製品で貢献してまいります。「BeFine!(健やか!)」は、シスメックスグループと株主の皆様との架け橋として四半期ごとに発行しています。

業績の推移 1
 ごあいさつ 1

事業のご報告

所在地別セグメント 3

特集・トピックス

フォーカス オン シスメックス
 シスメックスを知っていただくために
 研究開発から生産・販売・サービスを一貫してお届け、
 グローバルニッチNo.1を目指す 6

シスメックスのこれからを知っていただくために
 『“知”の創造と継承』をコンセプトに
 研究開発の中核
 “シスメックス テクノパーク”着工 7

財務諸表の概要

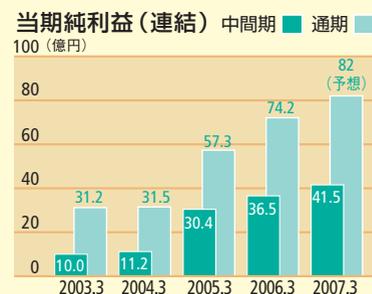
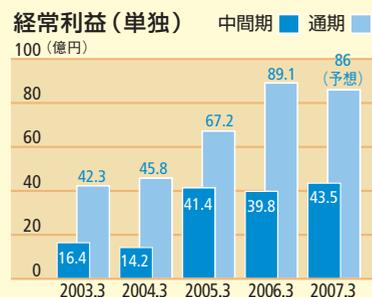
連結 9
 単独 11

事業別売上高・品目別売上高/
 商品一覧 12

株式の状況/会社概要/
 株主メモ/役員のご紹介 13

IR・広報室からのお知らせ

業績の推移



2007年3月期通期業績予想

2007年3月期通期業績予想につきましては、現時点では2006年5月11日に公表しました期初予想どおりとし、変更いたしません。(下記の表のとおり)
 なお、今後の平均為替レートは、対米ドル115円、対ユーロ145円を想定しています。
 また、配当金につきましても期初予定どおり中間期は1株当たり16円とし、期末は16円、年間では32円を予定しています。

(2007年3月期 連結通期業績予想) (単位:億円)

	売上高	経常利益	当期純利益
2007年3月期(予想) (2006年5月発表)	980	133	82
2006年3月期実績	878.8	119.8	74.2

*グローバルニッチNo.1:シスメックスの基本戦略のひとつで、グローバル市場での競争において、ある特定の領域でNo.1になること、またはNo.1を目指すことができる強みをもつことです。

グローバルにシスメック 過去最高の業績を達成し

当中間期の連結決算は、 7期連続の増収、 6期連続の二桁成長を達成

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当中間期の当社グループを取り巻く経営環境は、日本では企業収益の改善により国内消費の拡大を見込んだ設備投資の増加など堅調に回復しています。一方、海外では米国経済の先行きに不透明感はありませんが底堅く推移し、中国、欧州では景気は拡大しています。

医療を取り巻く環境は、日本では医療制度改革の動きが活発化し、本年4月の診療報酬改定による検査実施料の引き下げなど、依然厳しい環境が続いています。欧米の先進国でも、医療制度改革による医療費の増加抑制が進められています。一方、中国では医療全般の安全性を向上させるために管理規制が強化されており、アジア・パシフィックでは、より質の高い医療を求める動きが強まっています。

このような状況のもと、当社グループの当中間期連結決算は売上高474億円と過去最高の業績を達成し、7期連続の増収、6期連続の二桁成長となりました。為替の円安効果が追い風となり、海外における伸びが著しく、海外売上高比率はさらに上がり60%を超えました。特に直接販売サービス活動が浸透しつつある

*疾患マネジメント:新しい検査を導入することで、一人ひとりの患者さんに最適な医療を提供するマネジメントシステムです。

スブランドが浸透し、 ました。

米国での伸びが大きく、米州では前年同期比30.8%の増収となりました。

利益面では増収効果により売上総利益が増加し、販売費及び一般管理費の増加を吸収し、営業利益は前年同期比23.4%増の61億円、経常利益は前年同期比19.6%増の65億円、中間純利益は前年同期比13.6%増の41億円と、過去最高を更新しました。

当中間期末の配当金につきましては、予定どおり1株当たり16円とし、期末は16円、年間では32円を予定しています。

中期経営目標の達成と グローバルニッチNo.1への 確かな歩み

2005年5月に公表した中期経営計画では、2008年3月期の連結業績において売上高1,100億円、経常利益160億円を目標に掲げています。この目標達成に向けて、日本では病院などへの総合提案型販売の推進に加えて、総合サプライヤーとして開業医や病棟、動物病院向けの事業を展開しています。また、米国ではシスメックスブランドの認知度の向上を図り、市場シェアの拡大に努め、欧州では本年5月に南アフリカ共和国に現地法人シスメックス サウスアフリカを設立、9月にはスイスの現地代理店を子会社化し販売サービス体制を強化しました。このほか

動物病院市場への参入など対象市場の拡大に取り組んでいます。当社が基本戦略のひとつとして掲げる「グローバルニッチNo.1*」については、グループの総合力を活かし、血球計数分野においてグローバルでのシェアNo.1の獲得に向けて着実に進捗しています。

新たなステージに向けて 研究開発体制の強化に着手

日本をはじめ高齢化の進む先進国の医療政策は、健康で長く生きる、すなわち「健康寿命」を延ばすために「予防医療」への転換が進んでいます。この「予防医療」にとって「医療の質」と「医療費」をコントロールする鍵は「検査（診断）」であり、その重要性はますます増大していくと考えています。現在、病気の予防や再発・悪化予防のために患者さん一人ひとりに最適な医療を提供する“疾患マネジメント*”に貢献する価値の高い検査技術の創出に取り組んでいます。

当社は研究開発型企業として、研究開発の強化をグループの最重要課題として位置づけています。市場での競争優位性の獲得と持続的成長のために継続的な研究開発投資を実施しており、新たな研究開発拠点となる「シスメックス テクノパーク」の建設に着手しました。テクノパークでは研究開発者の創造性を高めるとともに、検体検査*領域で培った技術とライフサイエンスの新しい技術を融合し、価値の高い検査を提供すること



代表取締役社長

家次 恒

いえつぐ ひさし

【出身地】大阪【略歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社（現シスメックス株式会社）に入社。1996年、代表取締役社長に就任。【趣味】読書、ゴルフ、スポーツ観戦（熱心な阪神タイガースファン）【信条】「意あらば通す」

により、患者さんのQOL*（クオリティ・オブ・ライフ）の向上や健康寿命の延長に貢献したいと考えています。

当社は事業活動を通じて豊かな健康社会の実現と、企業としての社会的責任を果たすことにより、さらなる企業価値の向上を目指します。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

*検体検査(ダイアグノスティックス)：血液や尿、細胞などを体の中から取り出して調べる検査のこと。シスメックスは、「検体検査」分野で、血液検査や免疫血清検査、

尿検査などをおこなうための機器や試薬、さらにはこれらに関するソフトウェアなどの研究開発から製造・販売・サービス&サポートまで手がけている総合メーカーです。

*QOL:Quality of life(クオリティ・オブ・ライフ)は「生活の質」という意味です。これは「人が人としての尊厳を保ち、よりよく生きること」を指しています。

日本

医療制度改革に対応した、総合サプライヤーとしての事業の充実

- 診療報酬の引き下げなど医療費の増加抑制が進むなか、総合提案型販売の充実を図り、大規模病院への血液検査システム受注のほか、日本赤十字社様より血球分析装置を一括受注しました。
- 本格的な流行シーズンに先駆けて、インフルエンザ検査キットの販売促進活動を強化しました。
- 依然厳しい市場環境のもと、総合提案型販売の推進に加えて、総合サプライヤーとして開業医や病棟、動物病院向けの事業の充実に取り組みます。



多項目自動血球分析装置 XE-2100

日本赤十字社様より、当社製品の性能およびアフターサービスを高く評価していただき、検査部門の血液検査用機器として多項目自動血球分析装置「XE-2100」を一括受注しました。今後約2年間にわたって、全国14カ所の赤十字血液センターに順次納入する予定です。



※韓国・台湾の売上および海外関係会社向けの利益を含みます。

米州 (北米・中南米)

直接販売サービス活動が浸透し、シスメックスブランドの認知度が上昇

- 米国でのさらなる顧客カバー率の向上を目指して、販売サービス人員を増強しました。2003年から開始した直接販売サービス体制により、当社に対するお客様の評価は着実に上昇しています。
- 米国最大の病院グループHCA傘下のMidwest Health Systemとの独占販売契約などIHN* (総合医療ネットワーク) を対象とした販売に加えて、中小病院市場において多項目自動血球分析装置XTシリーズの販売が好調に推移しました。
- 中南米では、コスタリカ社会保険庁より一括受注するなど、着実な成長を示しています。



シスメックス エクスプレス

米国の中小規模病院、特に郊外にある病院へのプロモーションを強化するために、模擬検査室を搭載した特別仕様車「シスメックス エクスプレス」を導入しました。全米を巡回しながら、お客様に当社製品を実際に体験していただくことで、その優れた特長をご理解いただきました。



*IHN:米国の総合医療事業体。複数の病院により形成され、広域の医療圏で地域住民に必要な医療の提供を目的とした組織。

欧州

対象市場を拡大し、シスメックスブランドを活かした充実の事業展開

- 医療費の増加抑制が進む先進国では、検査業務の効率化と質の向上を支援する総合提案型販売により、ベルリン市のシャリテ大学病院の血液分析システムの受注など好調に推移しました。
- 南アフリカ共和国での現地法人の新設、スイス代理店の子会社化や動物市場への参入など、対象市場を拡大し、シスメックスブランドを活かした事業の展開に取り組んでいます。
- ライフサイエンス事業で初となる、乳がんリンパ節転移*迅速診断システムを販売しました。



ベルリン市のシャリテ大学病院傘下にある3つの病院から、総合血液検査システムを一括受注しました。これら病院のベッド数の総計は約3,500床と欧州で最大規模です。今回の受注により、ベルリン市での当社シェアは70%を超えました。



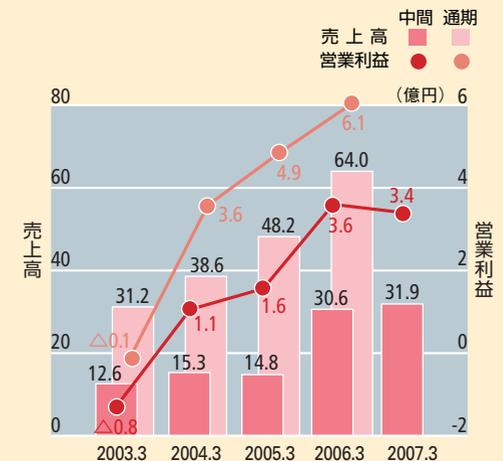
中国

医療業界クリーンキャンペーンの逆風と、市場の変化に対する期待

- 好調な経済成長により、医療の需要は拡大傾向であり、医療費の増加抑制に向けて検査収費（保険点数）の引き下げが進められています。
- 政府による医療業界クリーンキャンペーンの影響で市場が冷え込み、機器販売が停滞しました。一方、市場導入したXSシリーズは市場ニーズに適合しており、高く評価いただいています。
- 政府主導による農村部への重点投資のほか、都市部での質の高い医療への関心が高まっており、管理規制強化による市場の透明化と市場拡大が期待されています。



本年3月に全人代で採択された医療業界クリーンキャンペーンが実施されています。一部では機器の買い控えもあり、市場は低調に推移していますが、農村部への医療インフラ整備の予算化が決定するなど、今後も継続的に中国市場は拡大すると予想されています。



*リンパ節転移:がんの転移方式のひとつで、ある臓器で増殖したがん細胞がリンパ管の流れに乗って近接のリンパ節に転移を繰り返し、他の臓器へたどり

着き、そこで増殖します。この場合、病巣だけでなくがんが転移したリンパ節を含めて切除（郭清）することが再発予防に有効な手段となります。

アジア・パシフィック

- BRICs*の一角であるインドでは急速な経済成長により検体検査市場は拡大しています。
- シスメックス インディアの設立や試薬生産工場の新設など、事業体制の再構築に着手しました。
- 市場導入したXSシリーズは市場ニーズに適合しており、高い評価をいただいています。また、検査の質向上を提案するソリューションビジネス*も拡大しています。今後も品揃えと学術啓蒙活動を充実し、総合サプライヤーとしての事業拡大に取り組みます。

急成長が期待できるアジア・パシフィック市場で、インドにおける事業展開を加速



近年、アジア地域で生化学検査が大幅に増加していることを受け、当社は、中国、アジア・パシフィック市場に向けて生化学自動分析装置「CHEMIX-800」を投入しました。中国で生産予定の生化学試薬と組み合わせ、ベッド数500床以上の中規模病院に対し販売活動を強化します。



※韓国・台湾の売上および利益は除きます。

TOPICS 2006

- 乳がんのリンパ節転移を検出する遺伝子増幅検出装置「RD-100i」の市場導入を欧州にて開始
- 腎・尿路疾患の診断を支援する全自動尿中有形成成分分析装置「UF-1000i」を日本・欧州・アジア・パシフィックで同時発売
- ドイツに海外研究開発拠点「欧州R&Dセンター」を設立



遺伝子増幅検出装置 RD-100i



多項目自動血球分析装置 XS-1000i



全自動尿中有形成成分分析装置 UF-1000i



全自動血液凝固測定装置 CS-2000i

- 小型高性能・微量血対応の多項目自動血球分析装置「XSシリーズ」を発売
- 免疫血清分野にて化学発光酵素免疫測定技術の改良により、世界最高水準の検出感度を実現
- 業界初の同時多波長対応検出部を搭載した全自動血液凝固測定装置「CS-2000i」を発売

*BRICs:経済発展が著しいブラジル(Brazil)、ロシア(Russia)、インド(India)、中国(China)の頭文字を合わせた4か国の総称。BRICsのsは複数形を表します。

*ソリューションビジネス:ソリューション(solution)の語源は、動詞のsolveで「問題を解決する・解答を出す」などを意味します。日本語でこの言葉が登場するのは、主に情報と経営の分野で、シスメックスは医療現場の多様な課題を解決するために、医療機関を総合的にサポートしています。

シスメックスのグローバル戦略

研究開発から生産・販売・サービスを一貫してお届けし、グローバルニッチNo.1を目指す

シスメックスは研究開発から生産・販売・サービスを一貫してお届けする総合メーカーです。現在、世界19カ国、33カ所に事業拠点を設け、150カ国以上のお客様に製品・サービスをお届けしています。

当社は、試薬生産においては、現地での原材料調達ならびに生産を進めており、お客様への安定供給体制を整えています。

また、メーカーとして自らの販売・サービスネットワークを活用し、世界中のお客様と直接コミュニケーションを図ることにより、お客様からのより一層の安心と信頼の獲得に努めています。

シスメックスはグループの総合力を活かし、これからも豊かな健康社会に貢献することを目指します。

物流等

- 【国内】** ● シスメックス物流
- 【海外】** ● SYSMEX LOGISTICS UK (イギリス)

リース等

- 【国内】** ● トーアメディカル

製造 (試薬等)

- 【国内】**
 - シスメックスメディカ
 - シスメックス国際試薬
 - シスメックスRA



シスメックス国際試薬



SYSMEX EUROPE

- 【海外】**
 - SYSMEX REAGENTS AMERICA (アメリカ)
 - SYSMEX EUROPE (ドイツ)
 - 済南希森美康医用電子 (中国)
 - 希森美康生物科技 (中国)
 - SYSMEX INDIA (インド) **NEW**
- その他2社

ソフト開発

- 【国内】** ● シーエヌエー
 - 【海外】** ● SYSMEX BELGIUM (ベルギー)
- その他3社

シスメックス株式会社

販売・サービス

- ソリューションセンター
- 国内7支店、13営業所



ソリューションセンター

製造 (機器)

- 加古川工場



加古川工場

研究・開発

- テクノセンター・中央研究所
- 研究開発センター



中央研究所

販売・サービス

- 【米州】**
 - SYSMEX AMERICA (アメリカ)
 - SYSMEX DO BRASIL (ブラジル)
- その他1社



SYSMEX AMERICA

- 【欧州】**
 - SYSMEX EUROPE (ドイツ)
 - SYSMEX DIGITANA (スイス) **NEW**



SYSMEX EUROPE

- 【中国】**
 - 希森美康香港 (香港)
 - 希森美康医用電子 (上海)
- その他3社



希森美康医用電子(上海)

【アジア・パシフィック】

- SYSMEX ASIA PACIFIC (シンガポール)
- その他7社



SYSMEX ASIA PACIFIC

代理店

代理店

代理店

代理店

お客様

『“知”の創造と継承』をコンセプトに 研究開発の中核“シスメックス テクノパーク”着工

シスメックスはヘルスケア領域における事業拡大を目指し、先進的で価値の高い診断技術の創出に取り組んでいます。当社の研究開発の中核拠点であるテクノセンターを拡張し、新たに“シスメックス テクノパーク”として、2008年の竣工に向けて整備を進めています。現在『がん・糖尿病』を対象とした研究に注力し、患者さんのクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献する新しい検査・診断技術の実現を目指します。



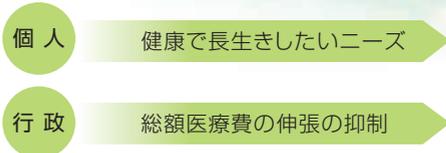
研究開発棟外観イメージ

質の高い医療を提供するために 高まる“検査”の重要性

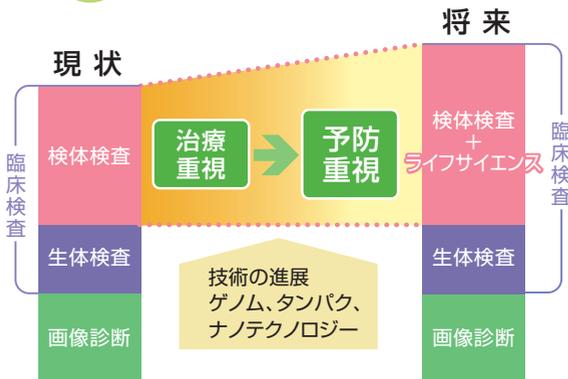
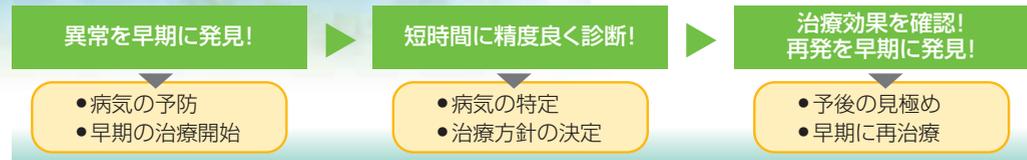
世界の先進国の多くで高齢化が進み、がんや生活習慣病が大きな社会問題となっている現在、日本では、医療費抑制に向けた医療機関の合理化や、病院経営の効率化が重要な課題となっています。また、治療から予防へと医療のあり方が大きく転換してきており、医療の質を左右する“検査”が果たす役割は非常に重要であるといわれています。

このような医療環境のなかで、検体検査分野のリーディングカンパニーであるシスメックスが貢献できるヘルスケア市場は、ますます拡大していくと予想されます。

■医療環境の変化と市場の拡大



■“検査” 起点の疾患マネジメント



研究開発強化のポイント



※FCM:フローサイトメトリー

治療から予防医療への転換 鍵を握るのは“検査”

シスメックスは、「予防医療」への貢献が大きく期待されているライフサイエンス事業に積極的に取り組んでいます。現在は、患者さん一人ひとりに最適な治療の選択が可能となる価値の高い検査を提供する「疾患マネジメント」を柱に、血液疾患、がん、感染症、メタボリックシンドローム*などの研究開発を進めています。

このような先進のテーマに取り組む研究開発型企業として、今後は優秀な人材の確保や開発環境の整備がますます重要となります。

研究開発型企业として 環境の整備・強化へ

当社は、研究開発体制の強化を重要課題と位置づけ、創立40周年となる2008年の完成に向けて、“シスメックス テクノパーク”の建設に着工しました。テクノパークでは、「知」の創造と継承」をコンセプトに疾患や生体に関する研究を加速し、生命科学技術の一層の拡充を図ります。また、既存の機器、試薬、ソフトウェアに関する技術についても、さらなる進化を図り、これら技術の融合による価値の高い技術の創出を目指しています。さらに、国内外のさまざまな研究機関とのコラボレーションも強化し、患者さんのクオリティ・オブ・ライフ向上に役立つ新たな検査・診断技術の実現を目指していきます。



電波暗室

特別実験棟

外部からの電波を遮断する、日本でも数少ない大規模な電波暗室など、各種実験設備を備えています。

研究開発棟

コンセントレーションルーム、ミーティングコーナーなど研究開発者の創造性を高める施設を充実させ、新たな技術の開発に取り組めます。



研究開発棟内部イメージ

コミュニケーションセンター

敷地中央に位置しており、研究者の交流やディスカッションの場として活用します。また、従業員同士のコミュニケーションや、新しいアイデアを生み出す創造の空間としての利用も予定しています。



本館

管理棟

新たに拡張する敷地

現在の研究開発拠点敷地

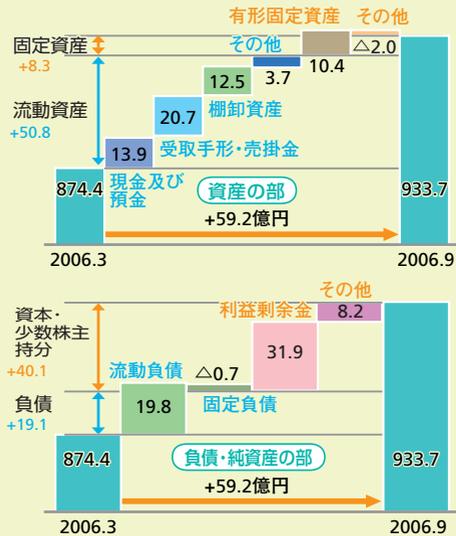
【テクノパークの概要】

- 土地面積：約7.2万平方メートル
- 新規建造物：研究開発棟（10階建て）、特別実験棟（2階建て）など
- 投資総額（設備・建物）：約100億円
- 工事期間：2006年9月～2008年9月末

*メタボリックシンドローム：内臓脂肪型肥満（内臓肥満・腹部肥満）に高血糖・高血圧・高脂血症のうち、2つ以上を合併した状態をいいます。

●貸借対照表の増減要因

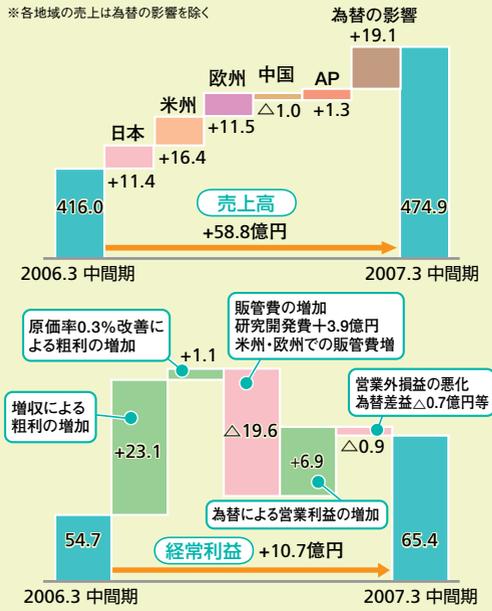
(単位:億円)



●売上高・経常利益の増減要因

(単位:億円)

※各地域の売上は為替の影響を除く



●資産及び純資産

総資産は、前期末に比べて59億24百万円増加しました。これは主に、現金及び預金が13億90百万円、受取手形及び売掛金が20億74百万円、棚卸資産が12億58百万円それぞれ増加したこと等により流動資産が50億89百万円増加したことによるものです。

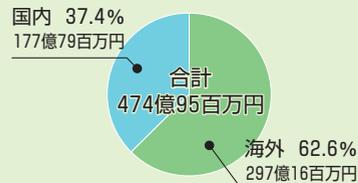
一方、負債合計は、主に支払手形及び買掛金が5億66百万円、短期借入金が4億75百万円それぞれ増加したこと等により、前期末と比べて19億11百万円増加し、258億50百万円となりました。

純資産合計は、主に利益剰余金が31億91百万円増加したこと等により40億13百万円増加(前期末の数値を株主資本に少数株主持分を加えた635億7百万円で比較)し、675億20百万円となりました。また、自己資本比率は、前期末の71.6%からわずかに低下して71.3%になりました。

●売上高

連結売上高は474億95百万円(前年同期比14.2%増)となり、仕向地別では、国内売上高は177億79百万円(前年同期比6.9%増)、海外売上高は297億16百万円(前年同期比19.0%増)となりました。

— 地域別売上高(当中間期連結) —



貸借対照表

(単位:百万円)

	当中間期末 2006年9月30日現在	前期末 2006年3月31日現在	増減額
流動資産	59,941	54,851	
固定資産	33,429	32,594	
● 資産合計	93,371	87,446	5,925
流動負債	22,954	20,967	
固定負債	2,896	2,971	
● 負債合計	25,850	23,939	1,911
少数株主持分	—	860	—
資本金	—	7,954	
資本剰余金	—	11,184	
利益剰余金	—	41,550	
その他有価証券評価差額金	—	1,234	
為替換算調整勘定	—	872	
自己株式	—	△150	
● 資本合計	—	62,646	—
負債・少数株主持分・資本合計	—	87,446	—
資本金	8,285	—	
資本剰余金	11,515	—	
利益剰余金	44,741	—	
自己株式	△158	—	
株主資本合計	64,384	—	—
その他有価証券評価差額金	951	—	
為替換算調整勘定	1,200	—	
評価・換算差額等合計	2,152	—	—
少数株主持分	983	—	—
● 純資産合計	67,520	—	—
負債純資産合計	93,371	—	—

損益計算書

(単位:百万円)

	当中間期 2006年4月1日から 2006年9月30日まで	前中間期 2005年4月1日から 2005年9月30日まで	前年同期 増減率(%)
● 売上高	47,495	41,606	14.2
売上原価	19,725	17,425	
売上総利益	27,770	24,181	
販売費及び一般管理費	21,637	19,209	
営業利益	6,133	4,971	23.4
営業外収益	602	667	
営業外費用	192	166	
経常利益	6,544	5,473	19.6
特別利益	27	24	
特別損失	29	71	
税金等調整前中間純利益	6,542	5,426	20.6
法人税・住民税及び事業税	2,718	2,059	
法人税等調整額	△360	△303	
少数株主利益	34	16	
中間純利益	4,150	3,654	13.6

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当中間期 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで	前中間期 2005年4月 1日から 2005年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,273	4,220
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,536	△1,683
財務活動によるキャッシュ・フロー	430	△631
現金及び現金同等物に係る換算差額	126	120
現金及び現金同等物の増減額	1,294	2,026
現金及び現金同等物の期首残高	9,416	10,457
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の減少高	—	△542
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,710	11,940

●営業利益・経常利益・中間純利益

営業利益は増収効果と原価率の低下により販売費及び一般管理費の増加を吸収し61億33百万円(前年同期比23.4%増)となり、経常利益は前中間期と比べ為替差益が減少したものの65億44百万円(前年同期比19.6%増)、中間純利益は41億50百万円(前年同期比13.6%増)となりました。

●キャッシュ・フロー

当中間期においては、営業活動によるキャッシュ・フローの収入により、投資活動によるキャッシュ・フローの支出を補い、現金及び現金同等物(以下「資金」という)は前期末に比べて12億94百万円増加し、当中間期末の資金の残高は107億10百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、42億73百万円(前年同期比53百万円増)となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益は65億42百万円(前年同期比11億15百万円増)に増加しましたが、売上債権の増加が13億3百万円(前年同期は30百万円の減少)になったこと等によるものです。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

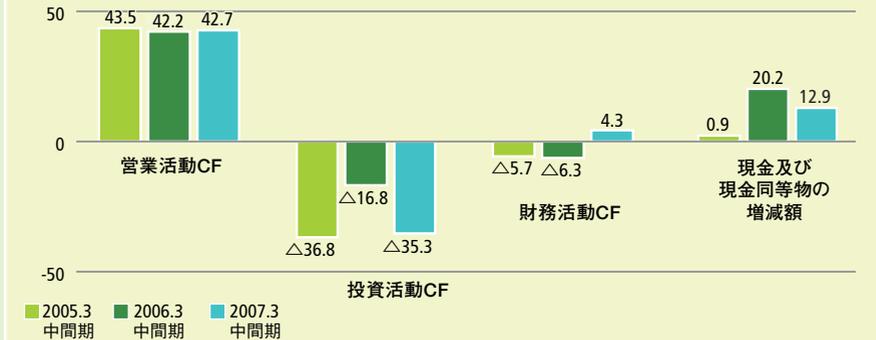
投資活動の結果使用した資金は、35億36百万円(前年同期比18億52百万円増)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が22億8百万円(前年同期比12億14百万円増)になったこと等によるものです。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は、4億30百万円(前年同期は6億31百万円の使用)となりました。これは主に、前期にはなかったストックオプション行使に伴う株式の発行による収入が6億61百万円あったこと、長期・短期借入れによる収入が5億92百万円(前年同期比5億65百万円増)になったこと等によるものです。

●キャッシュ・フローの推移

(単位:億円)



中間株主資本等変動計算書

2006年4月1日から2006年9月30日まで

(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算 差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式			
2006年3月31日残高	7,954	11,184	41,550	△150	2,107	860	63,507
新株の発行	330	330					661
剰余金の配当			△798				△798
役員賞与			△159				△159
中間純利益			4,150				4,150
自己株式の取得				△7			△7
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)					44	122	167
2006年9月30日残高	8,285	11,515	44,741	△158	2,152	983	67,520

貸借対照表

(単位:百万円)

	当中間期末	前期末	増減額
	2006年9月30日現在	2006年3月31日現在	
流動資産	42,280	40,329	
固定資産	41,908	40,109	
資産合計	84,189	80,438	3,751
流動負債	18,604	17,377	
固定負債	1,371	1,352	
負債合計	19,975	18,730	1,245
資本金	—	7,954	
資本剰余金	—	12,115	
利益剰余金	—	40,690	
その他有価証券評価差額金	—	1,098	
自己株式	—	△150	
資本合計	—	61,708	—
負債資本合計	—	80,438	—
資本金	8,285	—	
資本剰余金	12,446	—	
利益剰余金	42,807	—	
自己株式	△158	—	
株主資本合計	63,381	—	—
その他有価証券評価差額金	831	—	
評価・換算差額等合計	831	—	—
純資産合計	64,213	—	—
負債純資産合計	84,189	—	—

損益計算書

(単位:百万円)

	当中間期	前中間期	前年同期 増減率 (%)
	2006年4月 1日から 2006年9月30日まで	2005年4月 1日から 2005年9月30日まで	
売上高	29,291	27,005	8.5
売上原価	13,217	12,069	
売上総利益	16,074	14,936	
販売費及び一般管理費	13,414	12,456	
営業利益	2,659	2,479	7.3
営業外収益	1,836	1,665	
営業外費用	143	161	
経常利益	4,353	3,984	9.3
特別利益	2	2	
特別損失	6	15	
税引前中間純利益	4,349	3,971	9.5
法人税・住民税及び事業税	1,572	1,295	
法人税等調整額	△294	△254	
中間純利益	3,071	2,930	4.8
前期繰越利益	—	1,586	
抱き合わせ株式消却損	—	△234	
中間未処分利益	—	4,283	—

中間株主資本等変動計算書

2006年4月1日から2006年9月30日まで

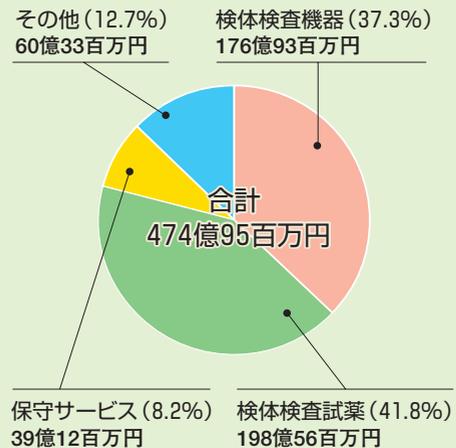
(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		
2006年3月31日残高	7,954	12,115	40,690	△150	1,098	61,708
新株の発行	330	330				661
剰余金の配当			△798			△798
役員賞与			△154			△154
別途積立金の積立			—			
中間純利益			3,071			3,071
自己株式の取得				△7		△7
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)					△266	△266
2006年9月30日残高	8,285	12,446	42,807	△158	831	64,213

■事業別売上高(当中間期連結)



■品目別売上高(当中間期連結)



<p>検体検査</p> <p>■システム</p> <p>HSTシリーズ</p> <p>XE-Alpha</p>	
<p>■血球計数検査</p> <p>多項目自動血球分析装置 XE-2100</p> <p>多項目自動血球分析装置 XT-2000i</p> <p>多項目自動血球分析装置 XS-1000i</p>	
<p>■血液凝固検査</p> <p>全自動血液凝固測定装置 CA-7000</p> <p>全自動血液凝固測定装置 CA-500</p>	<p>■免疫血清検査</p> <p>免疫凝集測定装置 PAMIA-40i</p>
<p>■尿検査・便検査</p> <p>全自動尿中有形成成分分析装置 UF-1000i</p> <p>便潜血用全自動分析装置 Hemo-LIAS200</p>	
<p>IT</p> <p>■検査情報システム</p> <p>臨床検査情報システム SIS</p> <p>血液細胞画像ファイリングシステム LAFIA</p>	
<p>新規事業</p> <p>■産業用粒子計測</p> <p>フロー式粒子像分析装置 FPIA-3000</p> <p>シースフロー電気抵抗式粒度分布測定装置 SD-2000</p>	
<p>■ヘルスケア</p> <p>末梢血管モニタリング装置 ASTRIM SU</p>	
<p>■POC検査</p> <p>多項目自動血球計数装置 pocH-100i</p> <p>自動血液凝固測定装置 CA-50</p>	
<p>■検体検査試薬</p> <p>インフルエンザ迅速診断キット</p> <p>ボクテム インフルエンザ A/B</p>	

●株式の状況 (2006年9月30日現在)

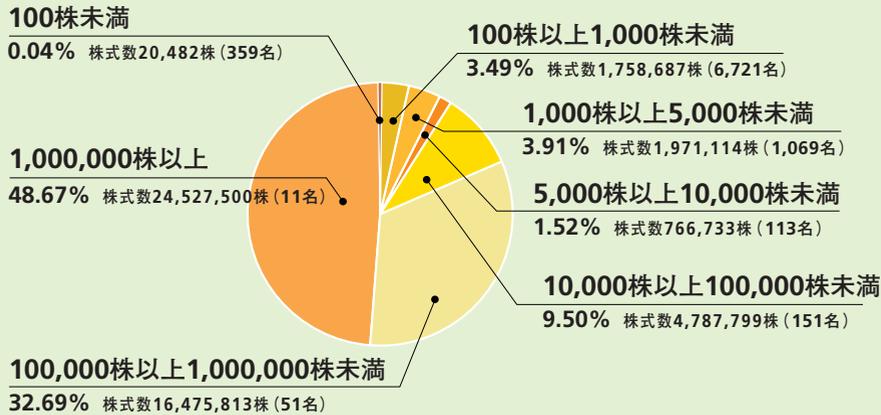
■会社の発行可能株式総数 149,672,000株[※]

※2005年11月18日付をもって、会社の発行可能株式総数を74,836,000株増加して149,672,000株としました。

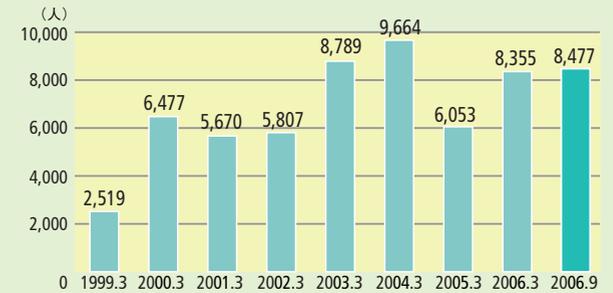
■発行済株式総数 50,398,396株[※]

※2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。

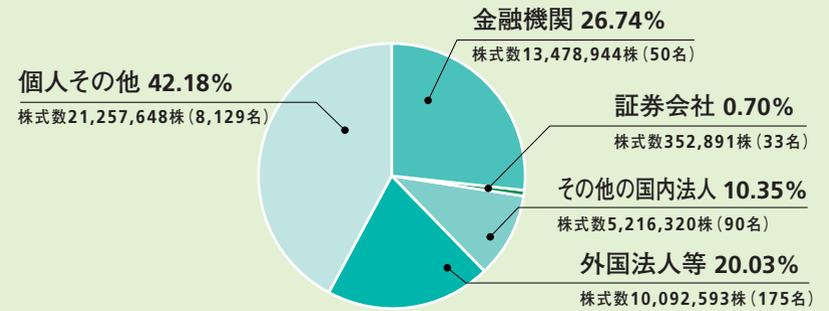
■所有数別分布状況



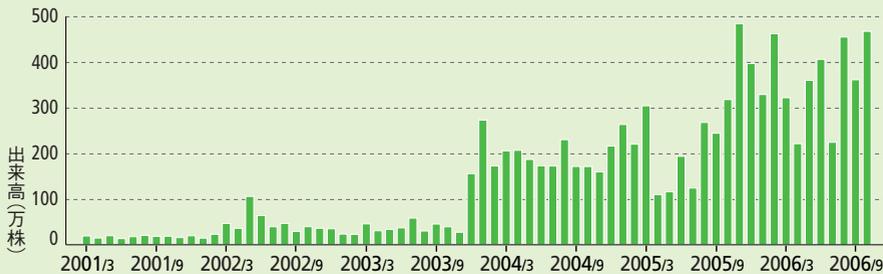
■株主数の推移



■所有者別分布状況



■株価・出来高の推移 (2006年10月31日現在)



※2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。



●会社概要 (2006年10月31日現在)

■商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION (1998年10月1日東亞医用電子株式会社から商号変更)
■設立年月日	1968年2月20日
■資本金	82億8,553万円 (2006年9月30日現在)
■格付け	A (R&I:格付投資情報センター)
■従業員数	1,247名 ※上記の従業員数には関係会社への出向者191名および嘱託、パートタイマー243名は含んでおりません。(2006年9月30日現在)

■主な事業の内容
臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器
ならびに関連ソフトウェアなどの
開発・製造・販売・輸出入

■主な事業所
本社 〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
TEL.078-265-0500(代)
FAX.078-265-0524

ソリューションセンター テクノセンター 研究開発センター
加古川工場 小野工場* 西神工場*
仙台支店 北関東支店 東京支店 名古屋支店
大阪支店 広島支店 福岡支店
営業所 札幌、盛岡、長野、新潟、千葉、横浜、静岡、金沢、
京都、神戸、高松、岡山、鹿児島

*シスメックス国際試薬株式会社

■主な関係会社

シスメックス国際試薬株式会社
シスメックスメディカ株式会社
トーアメディカル株式会社
シスメックス物流株式会社
シスメックスRA株式会社
株式会社シーエヌエー
SYSMEX AMERICA, INC. (アメリカ)
SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC. (アメリカ)
SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA. (ブラジル)
SYSMEX EUROPE GMBH (ドイツ)
SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH (ドイツ)
WELLTEC GMBH (ドイツ)
SYSMEX UK LIMITED (イギリス)
SYSMEX LOGISTICS UK LTD. (イギリス)
SYSMEX BELGIUM S.A. (ベルギー)
SYSMEX FRANCE S.A.S. (フランス)
SYSMEX BELGIUM IT SLOVAKIA, S.R.O. (スロバキア)
SYSMEX POLSKA S.P.Z.O.O. (ポーランド)
SYSMEX SOUTH AFRICA (PTY) LTD. (南アフリカ共和国)
SYSMEX DIGITANA AG (スイス)
済南希森美康医用電子有限公司 (中国)
希森美康香港有限公司 (中国)
希森美康医用電子 (上海) 有限公司 (中国)
希森美康電脳技術 (上海) 有限公司 (中国)
希森美康生物科技 (無錫) 有限公司 (中国)
SYSMEX ASIA PACIFIC PTE LTD. (シンガポール)
SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD (マレーシア)
SYSMEX INDIA PVT. LTD. (インド)
SYSMEX (THAILAND) CO., LTD. (タイ)
MED-ONE CO., LTD. (タイ)
SYSMEX SAN TUNG CO., LTD. (台湾)
SYSMEX NEW ZEALAND LIMITED (ニュージーランド)
PT. SYSMEX INDONESIA (インドネシア)

●株主メモ (2006年12月1日現在)

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	6月
■基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。
■公告掲載新聞	日本経済新聞
■上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部
■証券コード	6869
■単元株式数	100株

■株式事務	株主名簿管理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
(郵便物送付先・電話照会先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店

■お知らせ
1.住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人の電話0120-684-479 (通話料無料) で24時間承っておりますので、ご利用ください。
2.配当金を郵便貯金口座または銀行口座へお振込みすることができますので、株主名簿管理人に指定書用紙をご請求ください。
3.単元未満株式の買増制度を導入いたしておりますので、詳しくは株主名簿管理人にお問い合わせください。

●役員のご紹介 (2006年9月30日現在)

代表取締役社長
取締役 専務執行役員
取締役 常務執行役員
取締役 常務執行役員

いえ つく ひさし
家次 恒
ゆきもと けんいち
雪本 賢一
わか みつあき
和歌 光雄
いね さき ためお
岩崎 為雄

取締役 執行役員
取締役 執行役員
取締役 執行役員
取締役 執行役員
取締役 執行役員
取締役 執行役員

なか たに ただし
中谷 正
はやし まさよし
林 正好
おお ひがし しげのり
大東 重則
やま もと ひろし
山本 博
なか じま ゆきお
中島 幸男
たむら こうじ
田村 幸嗣

常勤監査役
常勤監査役
監査役
監査役
明田 光弘
あへ たな みつひろ
岩田 豊太郎
いし た たよしろう
石田 義暁
ふじ おか ひろむ
藤岡 弘

* IR・広報室からのお知らせ *

会社案内ホームページを リニューアル

当社はホームページを活用した広報活動を推進しています。このたび、操作性・デザインの向上を目的に「会社案内ホームページ」のリニューアルを実施しました。画面左側にメニュー欄を設け、当社のさまざまな情報へのアクセスに役立つよう改善しました。また、アニメーション形式での会社紹介の映像も新たに設けています。

今後も皆様のさまざまなご要望にお応えできるよう新しいコンテンツの掲載や操作性・デザインの向上に努め、より充実したホームページづくりを目指します。



アニメーション形式の会社イメージ映像を新たに設けました。

メニュー欄を設け、当社のさまざまな情報へのアクセス向上を図りました。

www.sysmex.co.jp/sysmex/index.html

当社投資家様向けホームページが 「IRホームページの優秀企業」に選定

当社の投資家様向けホームページ(以下、IRサイト)が、大和インベスター・リレーションズ株式会社(大和IR)の「インターネットIRサイトの優秀企業」に選定されました。これは、大和IRが主要な上場企業1,356社のIRサイトをレビューし、独自の選考コンテンツ評価に基づき定量的な採点を行った結果、当社IRサイトが「優れたホームページ」として認められたものです。



現在、中間決算の各種決算関連資料(「IR資料室」)をはじめ、個人投資家様向けの映像コンテンツ(「個人投資家の皆様へ」)などを掲載しています。ぜひ、この機会にご覧ください。



www.sysmex.co.jp/ir/index.html

Check!

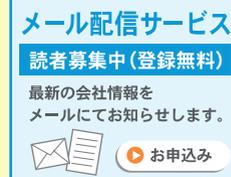
速報

日本IR協会より「2006年度IR優良企業賞」を受賞しました。

メール配信サービスは ご登録されましたか?

当社の最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールにてお知らせする「メール配信サービス」では、随時最新の情報を発信しています。ご登録の手続きは簡単で、購読は無料です。皆様、ご登録はお済みでしょうか?

多くの皆様のご登録をお待ちしております!



Click!

ご登録はこちらへ

www.sysmex.co.jp/ir/m_mag.html



最新のプレスリリース・IRトピックスを配信します。

(IR・広報室S・H)